

ハーモニー

(第35号)

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会
電話：22-2212 FAX：22-3910 メール：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

chapter 1 男性保健師との意見交換会を開催しました！

今年度、静岡県より池野^{いけのゆうき}佑樹保健師が人事交流のため、下田市市民保健課に派遣されております。男女懇話会では、女性が多く働いている保健師という中で、男性側から感じる様々なお話を伺いたく、意見交換会を開催しました。今回のハーモニーはその内容を掲載します。

◎池野保健師の自己紹介や県の男性保健師状況など

- ・静岡県へ入庁し今年で3年目。今年度、人事交流のため下田市へ。所属は市民保健課、母子保健事業担当。前職は静岡県西部健康福祉センターで主に感染症の仕事に従事。
- ・男性保健師としては、静岡県職で3人目（男性の保健師資格取得者は4人で、その内2人は30歳代、もう1人は一般行政職採用）。
- ・母子保健事業担当としては、そのとりまとめを行う静岡県東部健康福祉センターで1人と自分の2人。母子保健事業は市町でその事業のほとんどが行われているので、県が直接事業を行うことは少ない。



池野佑樹保健師

◎なぜ保健師になろうと思ったのか？

元々は病院で勤務したいと考えていた。両親が医療関係で働いていたこともあり、大学受験の際に薬剤師か看護師のどちらかでということ受験をした。また、祖父が入院をした際、病院の看護師さんからずっと痛くなっていた腰をさすってくれ、亡くなるまで看護師さんに対して感謝をしていたことなども志した理由の一つ。

何か人の役に立てる仕事に就きたいと思っている中で、たまたま合格した大学が看護学部だった。その後、大学で最先端のことなどを学ぶ中で、自分が病院で患者をサポートするのではなく、病院から出た後、地域に戻ったとき、患者に対して何かサポートできることをやりたいと思う気持ちが強くなった。その職業が保健師だったので、自然にその職業を目指した。

◎女性が多い職場だが、戸惑うことはなかったのか？

一番衝撃を受けたのはやはり大学入学をしたときのオリエンテーションの時だった（1学年80人中男性は5人だった）。最初は女性のパワーに圧倒されていたところがあったが、

4年間生活していく中で、男女というものはそんなに変わらないんだなと感じるようになった。

戸惑うことといえば、逆に相談を受ける市民の方かもしれない。自分は市民の方へ指導させていただく立場なので意識していないが、性に関わる相談などは、相談者側からすると何かしら抵抗はあるかもしれない。しかし男性としてではなく、保健師という専門職の立場で接するとそんなに関係はないのかなとも感じる。実際に母乳のことなど、必要な情報を専門職の立場で指導することを意識している。

○男性保健師の県内の比率等は？

正確なパーセンテージはわからないが、賀茂地区には東伊豆町に男性保健師が1人いる。全国的には保健師全体の約1%が男性保健師で、特に北海道、沖縄などの遠隔地や離島などに多い傾向がある。

○保健師をしている中で、男性としてのやりがいはあるか？

男性としてのやりがいではないが、前職で感染症の仕事を担当していたのでその中で感じたことがある。具体的には、結核を患った方が無事に退院し元の生活に戻る場合、約6か月間は自宅療養が必要となり、その間保健師は定期的に患者の家に通い様子を伺うことになっている。実際にそのような方がおり、その方の最後の訪問の際に『長い間様子を見てくれてありがとう』と笑顔で感謝の言葉を言われ、非常にやりがいを感じた。

次に男性としてやりがいを感じるのだが、これも前職で経験させていただいた。例えば、若い男性のお宅を訪問する際、必ず2名の保健師で対応するのだが、やはり女性だけだと危険な部分もあるので、そういったときに男性としての役割が果たせるのかなと感じる。また、HIV・エイズの電話相談へ女性保健師をターゲットとして悪質な電話が多かったが、男性である自分が対応したことにより、それがほとんどなくなった。HIVの問診なども男性の方などが相談に来られても、なかなか女性保健師に対して腹を割って全て話すことができないところがあったと思うが、そういった部分を男性の立場から相談できた事例もあった。案件によって性別が必要な時もあるのかなと感じている。

○実際に下田に来られて、どんなイメージを持っていますか？

これまで仕事をしていた県西部地域の母子保健は進んでおり、システム化がきちっとされていたが、賀茂地域はそれがやや遅れているのかなと感じている。下田市は特定健診受診率が低く、また母子保健も同様に受診率が低い状態である。母子保健を受診することによって、虐待や育児放棄の早期発見にもつながるので、何とか受診率を良くし、子どもたちをどうサポートしていくのかを考えていきたい。また全国的に子どもの出生率は減少しているが、よりきめ細やかな対応をすることにより、そのような問題に対し必ず対処できると考えている。何か上手くいくためのきっかけづくりができないか常に考えている。

○男性保健師であるがゆえ、相談者の母親からの抵抗を感じることはないか？

母子保健というのは、保健師の中で最も保健師らしい仕事でやりがいを感じている。この3か月間、母親の方からの相談などを対応させていただいているが、自分が思っている以上に抵抗は感じていない。しかし電話相談や新生児訪問など行う際には、必ず男性保健師ですが大丈夫ですかと一言確認をしている。今のところ、苦情は入っていない。

○女性ばかりの職場での人間関係は？

現在の職場はまだ来たばかりなのでわからないが、前職場では、周りの方々に自分の息子のようにつながっていた。職場内の雰囲気として、割と男女の視点で物事を見るというよりは保健師としての視点で見ていただいていたと感じている。浜松市の男性保健師第1号の後輩がいるが、特に職場での人間関係の問題はないと聞いている。特段、困ることはないのかなと感じている。特別扱いされるのは重たい物を運ぶ時くらいだと思う。



池野保健師と男女懇話会委員との意見交換の様子

◎保健師としての目標を立てていると思うが実際とのギャップは？

前職場に自分が目指す理想の保健師がいた。昔ながらのおばちゃん保健師で部下の面倒見もよく、相談者などに対しても相手の懐の中にどんどん入っていく上手さは本当に素晴らしかった。そういったことを見ながら、保健師としての経験がもっと必要だと認識すると同時に、もっとバリバリ仕事をやらなければならないと感じた。

下田へ来て、特に訪問を多く行かせていただきたいと考えているが、なかなか難しい部分もある。保健師という仕事は、人が生まれてからお亡くなりになるまでの長い期間が仕事の範囲となり、また母子保健以外にも成人保健や精神保健など多岐にわたっている。市町に事業の権限も下りてきており、今いる職員数で何とか対応しているのが現状。そういった中でもなるべく外へ出る頻度を多くし、市民の声を聞き、それを施策につなげられるようにすることが理想。

◎静岡県男性保健師ネットワークの交流の話や保健師の報酬面について

静岡県男性保健師ネットワークは少ない男性保健師だが盛り上げていこうということで立ち上がり、各市町男性保健師だけでなく男子学生なども交え情報交換などを行い、交流を深めている。磐田市の男性保健師の方が様々なアイデアを出しており、例えば中高年女性の受診率が低いということで、映画みたいにレディース DAY を設けるなど、様々な提案があった。ネットワーク自体がまだ立ち上がって間もないこともあり、具体的な事例についてはこれからどんどん出てくると思う。

報酬については、公務員の場合、給与表に基づいて支給されている。一般行政職や保健師みたいな専門職を問わず、女性の場合、産休育休があり、その間の昇給の関係で上の立場になるのに時間がかかる部分はあると思う。給与表は、県と市町によっても違いがあるため、申し訳ないが詳しいことはわからない。

◎子育てをする母親たちと接するとき、何か感じることはあるか？

まだ母子保健担当になって3か月なのでわからないことだらけだが、仕事をしながら子育てをすることは凄く大変なことだと感じる。なかには予防接種を忘れる方もおり、そういった方を何とかサポートしたいと思うと同時に、会社の制度的なもの（少しの時間でも抜け出せるようなもの）はないだろうかとも思う。型に当てはめなくて、その人その人に

合ったサポートを考えていきたい。

また、発達障害等の専門的機関が賀茂地域にはないので、そういった問題を抱えている方に対してもサポートをしたい。県東部には東部発達障害者支援センターがあり、システム化もされていて、医療機関にも行きやすい環境が整っている（行政機関、民間機関、医療機関のネットワークが確立されている）。

○下田市ではそういった子どもたちに対し、こういった対応をしているのか？

相談もカウンター越しで行っているから相談しにくい状況ではないか？

月2回定期相談等を行い、その中で対応している。相談室についてだが、前職の県西部健康福祉センターは1階に4部屋（子どもスペース確保）、2階も2部屋あり、環境が整っていた。下田の場合、カウンター前の長椅子に座りながら話を聞いているが、相談しにくい環境であるのは確かである。また健診時のレイアウトもスペースの問題もあるが、ごった返しているのが現状。南伊豆、河津などは保健センターや個別の相談室があり、ゆとりのある相談がされていると思う。システムと場所があれば理想的である。

○母子保健の訪問に既に出ているのか？

実際に訪問には伺わせていただいている。保健師として、家庭での様子を伺ったり、こちらから声掛けすることなどは非常に大切。そういった訪問を行うことにより、先ほど話題になった虐待や育児放棄などの早期発見につながると考えている。

○就学前と就学後で、情報の連携が取れているのか？

情報連携を行う連絡会を持っており、十分機能していると思う。例えば、保育所の先生などは虐待や育児放棄等の問題を一番わかるポジションであり、そういった情報を上手く教育委員会へつなげることは大切である。最近も所在不明の子どもの問題がニュースになったが、訪問を多くしたり、健診等の受診率を何とか上げて、そういった問題をカバーしていきたい。

○人口減少が進む中で生産年齢人口の平均年齢も高くなっている。

少子化問題もあるが、やはり経済的な理由で少なくなっているのか、どう考えているのか？

一概に経済的な理由で少なくなっているとは考えられない。中には経済的に厳しい家庭でも子どもが多い世帯もある。

○親子学級、母親学級などで父親の参加率は高いか？

特に沐浴学級などのときは父親の参加率が高い。また、予防接種などでも父親の参加率が割と高い。大切なことは父親を子育てに巻き込んでいくことなのかもしれない。

○これからの母子保健は？

全国的に子どもの行方不明などの事件、虐待や育児放棄などが問題となっている。それらを未然に防ぐのが市役所であり、そのためにはまずは健診・訪問等を行い、関係機関と連携し、地域で子どもを育てることが重要である。父子家庭なども多くなってきており、女性保健師に対してなかなか言えなかったことも、男性保健師として、男性目線で対応し、下田でそういう問題が起こらないよう、日々の仕事に取り組んでいきたい。

男女共同参画情報紙「ハーモニー」は、下田市ホームページでも公開されております。

ホームページアドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

【 ホーム > 市政ガイド > 男女共同参画 > 男女共同参画情報誌「ハーモニー」 】

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」へのご意見、ご感想を募集しております。

下田市役所 企画財政課 企画調整係 までご連絡ください。

TEL : 0558-22-2212 FAX : 0558-22-3910 E-mail : kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp